

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習 I-2	PSP11-003	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 祐太 他	D310	y.sakamoto	火曜 13:00~14:40		
授業の目的・概要	理学療法では解剖学、生理学、運動学の基礎医学の知識が必要不可欠である。そこで、理学療法演習 I-2 では、理学療法演習 I-1 で学んだアカデミックスキルを用いることによって、理学療法に必要な基礎医学や疾病への理解、骨、筋の基本的知識を深め、主体的に学修する習慣を身につけること目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	理学療法演習 I-1 で学んだ学習法、授業内外のグループワークや学習が重要となる。また、各専門基礎科目を復習すること。自ら学ぶ姿勢を持ち、発言が苦手な学生もグループへの積極的な貢献を行うことを推奨する。授業内では完結しないため、自主学修する機会を積極的に設けること。				
教科書	機能解剖と触診/工藤 慎太郎/羊土社/2019				
参考書	論理的文章作法<帰納法・演繹法・弁証法で書く>、西田みどり、知玄社/2017 基礎運動学第7版、中村 隆一 他、医歯薬出版 /2025 アカデミックスキル (授業配布資料)				
外部教材					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	理学療法における基礎医学の意義を理解し、説明できる。			RH(1)~(3)	
②	論理的思考方法を理解し、理学療法に関連する題材で実践できる。			RH(2)~(3)、HSU(4)~(6)	
③	理学療法におけるグループワークの活用方法を理解し、実践できる			RH(3)~(6)、HSU(4)~(6)	
④	理学療法におけるプレゼンテーションの方法を理解し、実践できる。			RH(3)~(6)、HSU(5)~(6)	
⑤	骨・筋の触診技能を習得し、特徴や機能について説明できる。			RH(2)~(3)、HSU(2)	
⑥	共同した学習方法を実践できる			RH(3)~(6)、HSU(4)~(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)	
1	「概要」理学療法演習 I-2 の学修内容について解説する。	[担当] 坂本祐太	講義・演習	0	
2	「専門基礎①」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	[担当] 坂本祐太 他	演習	基礎医学の知識を用いる課題に対し、グループワークでの討論をする。グループでプレゼンテーションを作成し、発表準備をする。担当教員からの指導を受ける。	
3	「専門基礎②」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	[担当] 坂本祐太 他	演習		
4	「専門基礎③」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	[担当] 坂本祐太 他	演習		
5	「専門基礎④」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	[担当] 坂本祐太 他	演習		
6	「専門基礎⑤」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	[担当] 坂本祐太 他	演習		
7	「専門基礎⑥」プレゼンテーションをする。	[担当] 坂本祐太 他	演習	解剖学、運動学を復習する。骨・筋の名称や部位、運動方向等の運動学の基本的知識の復習をする。触診の練習を行う。	
8	「触診課題」上肢の骨および筋について講義、グループで学習する。	[担当] 坂本祐太 他	講義・演習		
9	「触診課題」下肢の骨および筋について講義、グループで学習する。	[担当] 坂本祐太 他	講義・演習		
10	「触診課題」下肢の骨および筋について講義、グループで学習する。	[担当] 坂本祐太 他	講義・演習		
11	「触診課題」頭部・体幹についてグループ講義、グループで学習する。	[担当] 坂本祐太 他	講義・演習		
12	「触診課題」触診についてグループで学習する。	[担当] 坂本祐太 他	演習		

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

13	「触診課題」触診についてグループで学習する。	[担当] 坂本祐太 他	演習	
14	「触診課題」触診について実技総復習、実技試験をする。	[担当] 坂本祐太 他	演習	
15	「触診課題」触診について実技総復習、実技試験をする。	[担当] 坂本祐太 他	演習	
試				

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	0	40	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	10	0	10	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	20	0	10	0	0	30
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	10	0	5	0	0	15
	問題を発見・解決する力	0	0	5	0	0	5

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
実技試験	①	✓	授業の中で行われる骨・筋の触診を口頭試問、実技試験にて成績判定とする (30%)。	必要に応じて、解説を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
筆記試験	①	✓	①論理的思考方法、グループワーク、文章作成方法に関する知識について、②骨筋関節の触診に関する知識について筆記試験を行い、成績判定とする (30%)。	必要に応じて、解説を行う。
	②			
	③			
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
成果発表	①	✓	「専門基礎」の発表を評価し、成績判定とする。成績判定には、教員による評価と演習班内の学生同士による評価を用いる。学生同士による評価では、課題への取り組み、発表への参加を評価する (40%)	必要に応じて、解説を行う。
	②	✓		
	③			
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		

備 考

他 担 当 教 員	粕山 達也、三科 貴博、関口 賢人、関根 聡美、源 裕介、石井 智也、福田 京佑
教員の実務経験	理学療法士として7年の臨床経験がある。グループワーク中心の授業のを担当を4年間している。
実践的授業の内容	アカデミックスキルを用いた実践を行う。前期に学修したグループワーク、思考法、プレゼンテーションスキルを用いて、基礎医学について科目横断的に知識を統合し、演習によって理解を深める。また、部分的には今後学習する運動療法学、病理学、臨床医学についても触れることで能動的学習を経験する。理学療法において必須となる骨、筋の基礎的知識に関する実技をグループで学修することで、理学療法の理解や知識の統合や、チームにおける共同方法を体験する。
そ の 他	この科目では、多くの授業においてグループ単位での活動をする。授業外での活動が重要になるため、学生間、教員との連絡の際には相手を尊重し、授業内で講義する連絡取り方について理解し、マナーを守ること。PCを使用する場面があるため、準備しておくこと。授業の進行状況により、一部変更される場合がある。